

★学校教育目標	◎深く考え、自ら学ぶ生徒 ○健康で、たくましく生き抜く生徒 ◎礼儀正しく、思いやりのある心豊かな生徒	★重点計画の概要
★目指す学校像（ビジョン）		【学びの変革プロジェクト】 自ら学ぶ姿勢を育成するには、生徒自身が興味、関心の対象をもち、自分の力（能力）で育てることが肝心である。そのことについて今年度は9教科で実践していく。「探究的で深い学び」を生徒がどの教科で「自ら意欲的に学ぼうとしていくか」。教科性もあり、得意不得意もあるが、そのことも鑑みて、探究心を育てていきたい。どの分野で個々の生徒が頑張ろうとするのか、自ら選択させ、成功体験と粘り強さも育成したい。
【目指す児童・生徒像】	自分の未来を見て学習、生活し、挑戦意欲があり、周りに気を配りながら友人と共に成長ができる生徒	
【目指す学校像】	生徒と教職員間の信頼関係が十分にあり、意見交換が気持ちよくでき、心穏やかに生活ができる学校	
【目指す教師像】	生徒から信頼され、相談に快く応じる、学校にかかわる全ての人たちと会話ができる教職員	

領域	中期経営目標	短期経営目標	具体的方策	評価指標・評価基準		学校評議員・学校運営協議会の意見	結果の分析と改善策		
				評価点	取組指標			評価点	成果指標
みんなが当事者として、自ら歩む道をつくる	「わかる授業」「楽しい授業」の実践	日野スタンダードに基づく授業のUD化を進め、「わかる・できる」を実感できる授業を実践し、参加意欲の向上を図る。基礎学力を反復学習等で定着させ、また、ICT機器を活用し情報活用能力の向上と学力向上につなげる。探究的な学びから学ぶことは楽しいという実感を体験させる。	<ul style="list-style-type: none"> ・ひのスタンダードに基づいた授業改善に取り組み、指導内容の充実と指導方法の工夫・改善を図り、わかりやすく充実した授業を展開していく。 ・主体的、対話的で深い学びの視点から、生徒自ら課題を見つけ、自分の考えを形成し、また多様な考えを受け入れながら新たな意味や価値を創造していく授業づくりを推進する。 ・探究的な学び等においてICT機器と学校図書を活用し、生徒が主体となり活動し、楽しいと感じる授業実践を行う。 	4 95%の教員に十分な指導実績がある	3	4 「授業はわかりやすく、工夫されているか」という回答が95%以上	4	<ul style="list-style-type: none"> ・ネットで簡単に調べる時代になってきた中で、図書を使って調べる経験は大切。生成AIの時代で、信頼ある情報を選択できる力が重要。 ・生徒同士の学び愛が重要。対話的な活動は、学力のみならずコミュニケーション力や道徳性の向上にもつながる相乗効果がある。 ・他者との対話の中で多様な考えに触れる中で答えを導く学習が良い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業のねらいを分かりやすく伝えるなど、学校全体で授業のUD化を推進することができた。 ・すべての教科で探究学習の研究授業を行い、授業改善を図ることができた。 ・全国学力・学習状況調査から、主体的な力や対話的な活動の経験がやや不足している結果であった。来年度も継続して授業改善に取り組み、主体的・対話的で深い学びへの転換、学習の個別最適化など、学びの変革を目指していく。
				3 90%以上の教員に十分な指導実績がある		3 「授業はわかりやすく、工夫されているか」という回答が90%以上			
健やかな体の育成	生徒が体力・運動能力を向上させ、生涯にわたってスポーツに親しみ、健康で安全な生活を送ることができるように、教育活動全般を通して幅広い指導や支援を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・運動の楽しさや体を動かす心地よさを味わうことができる主体的・対話的で深い学びにむけた授業改善を推進する。 ・奉化祭体育の部を通し、生徒が自分の体力・運動能力向上を実感し、目標をもって継続的に取り組める環境を整える。 ・部活動やスポーツ行事への参加を促し、自主的な活動を促進させ、スポーツの楽しさを味わわせる。 ・食物アレルギーの対応を適確に行うため、対象生徒の保護者との面談等を行い実態把握に努める。給食や授業での安全確保を徹底しアナフィラキシー発生を想定した対応訓練を行う。 	4 95%の教員に十分な指導実績がある	4	4 「健康・運動に対する意識が高まった」という回答が95%以上	3	<ul style="list-style-type: none"> ・運動の部は、全学年がまとまって一体となって躍動していた。今年は特に盛り上がりつつあるように見えた。 ・カリキュラムの問題があると思うが、球技大会や屋休みに実施する取組があると良いと思う。 ・地域ができることも検討したい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・奉化祭体育の部では、生徒が主体となって取り組み、生徒は運動に親しむとともに体力・運動能力の向上につなげることができた。 ・消防署員を講師に招き、食物アレルギー対応等の実践研修を行い、緊急時の組織的対応力について理解を深めた。 ・運動部に所属していない生徒も、日常的に運動に親しむことができる工夫について、学校内外での参加の機会を創出していく。 	
			3 90%の教員に十分な指導実績がある		3 「健康・運動に対する意識が高まった」という回答が90%以上				2 85%の教員に十分な指導実績がある
みんなの多様な学びとあわせをつくる	みんなが自信をもち、夢を育むことができる学校であるための特別支援教育の推進	学校生活に困難さを感じている生徒の早期発見、情報交換、教育相談、学習・生活指導、進路指導を迅速かつ組織的に行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・入学時に進学支援シートを活用し面接を行い、個々の生徒の発達支援の取組と連携した指導を行う。かしの木シートを活用し支援が必要な生徒に関する情報を教職員が共有する。 ・校内委員会を活用し、支援を必要とする生徒情報の交換と個別生徒の指導方針を決定し、担任、SC、外部機関との関りの具体的な方向性を示す。校内委員会とステップ教室、リソースルームとの連携を強化する。また、多様な学びのあり方理解と教室の環境を整え、支援生徒が安心して通級できるようにする。 	4 95%の教員に十分な指導実績がある	4	4 「学校はあなたの悩みや相談に適切にしている」という回答が95%以上	2	<ul style="list-style-type: none"> ・取組指標と成果指標との値の差について、教員目線からは適切に対応していると感じているようだが、生徒や保護者はそう思っていない実態があるのではないかと。 ・教員と生徒間のコミュニケーションが大切。日常的なコミュニケーションが足りないと、何かあった時の対応として指導や相談内容が入っていないのではないかと。 	<ul style="list-style-type: none"> ・取組指標と成果指標に差が生じており、1割以上の生徒が不安に思っている現状を真摯に捉え、誰一人取り残さない学校づくりを目指し、課題の把握と改善策の検討に取り組み必要がある。 ・日常的な教員と生徒とのコミュニケーションを意図的に増やすとともに、生徒がいつでも相談できる方法を多様に用意し、生徒に寄り添った対応ができるように改善を図る。 ・学習支援教室やリソースルーム、ステップ教室の利用が活発になるように運営体制を見直し、教育相談体制の充実を図る。
				3 90%の教員に十分な指導実績がある		3 「学校はあなたの悩みや相談に適切にしている」という回答が90%以上			
学校生活の中で、生きる喜びが実感できる潤いある人間関係づくり	生徒の人権感覚を育てるため、全ての教育活動を通して人権尊重の理念を基調とし、豊かな心と感性を育成する。思いやりの心や規範意識を高めるために、全ての教育活動を通して道徳教育の充実を図る。そして、いじめの根絶に全校体制で務める。	<ul style="list-style-type: none"> ・道徳推進教師を中心に「特別な教科道徳」において、「考え議論する道徳」の授業を進める。教員の授業力向上を図り、豊かな心情と道徳的判断力及び道徳実践力を培う。 ・生活指導部会で個別生徒の生活指導上の課題について情報交換を行い、校務支援システムを活用して常に最新の情報を教職員が共有する。※生活アンケートの活用 ・「日野第四中学校いじめ防止基本方針」に基づき、いじめ予防と発生時の対応を組織的に行う。いじめが重大な人権侵害であることを生徒に理解させる。 	4 90%の教員に十分な指導実績がある	4	4 「道徳の授業に積極的に取り組んでいるか」という回答が90%以上	4	<ul style="list-style-type: none"> ・オンラインでのつながりが多くなり、生身の人間同士のコミュニケーションが少なくなってきているので、意図的に創出することが重要。 ・道徳地区公開では、教員間で授業の差があったことが気になった。先に道徳的な価値観を教員が伝えてしまっていて、生徒が意見を考えにくい授業があった。 ・生徒はいろいろな教員の道徳の授業が受けられると良い。教員がクラスをローテーションして授業ができると良いのではないかと。 	<ul style="list-style-type: none"> ・取組指標、成果指標ともに目標を達成しているが、全国学力・学習状況調査では、道徳での話し合いの時間や、思いやりや規範意識、いじめに対する認識等について改善すべき点を見取ることができた。 ・道徳の授業では、ICT機器を有効に活用して他者の考えを共有する場面を増やすなど、道徳的価値観について多面的・多角的に捉える力を育成していく。また、全学年で担当教員をローテーションにする取組を実践し、教職員の授業力向上を図る。 	
			3 85%以上の教員に十分な指導実績がある		3 「道徳の授業に積極的に取り組んでいるか」という回答が85%以上				2 80%以上の教員に十分な指導実績がある
社会と未来に開き、みんなてつくる	わくわくするような学びを地域とともにつくる	地域の教育資源を活用した体験的な学習を推進し、教科等の授業で身に付けた知識・技能を実社会や実生活の中で生かすことができる能力を伸ばさせる。	<ul style="list-style-type: none"> ・学校周辺の農家や製造企業から講師を招き、実習や講演内容から地域経済を支える産業への理解を深めさせる。 ・やまばと、光の家、八王子東特別支援学校等との交流を通して、身近な人々の多様性を理解させ、共生社会の一員として他者のために何が出来るか、そのためにどのような資質や能力が求められるかを考えさせる。 ・旭が丘商工連合会と連携して職場体験学習を行い多様な実習先を確保し、また商工会会員による事前講話から働くことの意義や仕事におけるコミュニケーション能力を理解させる。 	4 95%の教員に十分な指導実績がある	4	4 「地域への理解が深まった」という回答が95%以上	4	<ul style="list-style-type: none"> ・日野市を知るという意味では、市の施設や担当者などの人材を活用して学ぶと良いと思う。養蚕や用水など、地域について知る機会があると良いのではないかと。 ・探究学習は難しいこともあると思うが、ゴールがない取組はかえって面白いのではないかとと思う。来年度、探究の学習を見る機会をいただけたら良い。 ・小グループごとに地域の人材を配置する等、多様な人材が支援に関われると良いのでは。生徒が楽しんで活動できれば良い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・総合的な学習の時間において、2年生では旭が丘商工連合会の協力を得て地域の企業等の方を講師とした講演会を実施し、地域の理解を深めることができた。1年生では八王子東特別支援学校との交流会を通して、相互理解や多様性の理解を深めることができた。 ・総合的な学習の時間をより探究的な取組に変えていくために、年間計画の見直しを予定しているが、来年度も地域との連携を図り、地域の中で学び育つ機会を増やしていく。
				3 90%以上の教員に十分な指導実績がある		3 「地域への理解が深まった」という回答が90%以上			
地域に出て、地域の未来を考える人材を育てる	地域で中学生として何が出来るのかを考え、発信し実行できる生徒の育成を目指し、関係機関と連携しながら実行する取組を支援する。	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒会サミットの活動を通して、中学生の主体的な取組について交流を行い、校内への還元や活動の幅を広げていく。 ・四中オヤジの会主催「サマーフェスティバル」や四中地区育成会主催「新四中生交流会」でのボランティア活動に積極的な参加を促し、四中に来る人を温かく迎える体験をさせる。 ・地域や近隣の福祉関係施設の開催する行事に生徒を派遣し、多様な人々と共に生きていくことの素晴らしさを実感させる。 ・学区内小学校との連携を実践し、小学校との直接交流の機会を設け、地域のリーダーとしての自覚をもたせる。 	4 70%の教員に十分な指導実績がある	4	4 「地域活動に積極的に参加し取り組んでいる」という回答が70%以上	2	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の清掃活動など、ボランティアの情報を生徒に発信できると良いと思う。 ・土日のボランティア活動には教員の引率が必要なのか？機会を増やすことは検討したいが、そのことで教員の負担にならないか懸念がある。 ・来年度からコミュニティスクールに移行することもあり、学校運営連絡協議会が主体となった活動を増やせると良い。怪我や物損のリスクについての対応がクリアできれば、教員の働き方改革にもつながり良いと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒アンケートでは昨年度よりも6.6ポイント上昇しており向上が見られる。 ・オヤジの会主催のサマーフェスティバルでは多くの生徒が運営に関わることができた。その他、光の家のイベントやたき火祭、学区内小学校の行事の運営など、ボランティア活動に参加する機会を増やすことができた。 ・生徒会主催のクリーン作戦が最も参加人数が多い活動であるので、さらに参加生徒が増やせるように支援をしていく。 ・学校運営連絡協議会との連携を強化し、教員の働き方改革と生徒の地域活動との両立を図り、生徒のボランティア体験の機会を増やしていく。 	
			3 65%の教員に十分な指導実績がある		3 「地域活動に積極的に参加し取り組んでいる」という回答が65%以上				2 60%の教員に十分な指導実績がある

※評価指標・評価基準は、2の段階を現状としています。